

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年12月21日

協議会名:豊川市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊川市コミュニティバス	基幹路線:6路線 地域路線:4路線	前回の評価は、期待する取組として、目標値の達成状況が地域間で大きく差が出ているため、利用状況を分析し、合併前の地域特性を考慮した要素を反映するなど、市内一律の目標値についての検討と、全体的な利用を増やすため、鉄道・幹線バスと支線バスとの連携・乗継利用を喚起する施策についての検討、調査事業については、今年度の調査結果を踏まえ、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定の期待であった。	A 計画どおり実施している。	年間利用者目標:125,000人/年 年間利用者実績:81,971人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:66% 平成28年10月の路線・運賃体系変更後の利用者数は、前年度を上回る状況が続いていたものの、新型コロナウイルス感染症拡大以後は減少に転じ、利用者数、収支率とも目標未達であった。 しかし、コロナ禍においても、特に買い物目的が多い路線の利用者数はあまり減少していないことから、買い物が日常生活に欠かせないものであることがわかるが、すべての路線が程度の差があるものの買い物目的で利用されているため、今後も確保、維持していく必要がある。	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、利用促進策を実施しても効果が見られないが、日常生活に不可欠な路線ほど利用者数が回復しやすい傾向があると思われることから、当面はこうした路線を中心に利用促進策を実施する必要がある。 また、新型コロナウイルス感染症が収束した後には利用者数が戻ってくるよう、周知広報活動や、市費で整備したGTFSデータをオープンデータ化し、本市における公共交通機関の一体的な経路検索ができるコンテンツプロバイダ数を増加させるなど、コロナ禍でも実施可能な利用促進策を実施する必要がある。
豊川国府線(豊鉄バス)	国府駅~豊川駅前	連携・乗継利用の喚起施策については、市費で本市を運行する幹線バスとコミュニティバスのGTFSデータを整備し、鉄道・幹線バスとコミュニティバスとの一体的な経路検索(Google・ナビタイム)を可能にした。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:26,210人/年 年利用者実績:7,540人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:29% 通勤利用目的や入浴施設利用目的が多い路線であり、新型コロナウイルス感染症の影響で休校や施設の休館などがあったため、利用者数は前年度比67%であった。	小型バスで運行する利点を活かし、ニーズが多い国府駅、豊川市民病院、ゆうあいの里を循環するルートに変更する予定で協議を進める。
千両三上線(豊鉄タクシー)	上千両集会所~三上地区市民館	計画策定への期待については、調査結果を踏まえ、協議会において幹線バスとフィーダー系統の並走解消や長大路線の短縮化等について協議中である。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:11,357人/年 年利用者実績:10,652人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:94% 通勤目的が比較的多い路線であるため、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり受けず、利用者数は前年度比82%に留まった。	見直し予定の路線体系では、接続するバス路線が民間バス路線のみとなるため、豊川駅における豊鉄バスとの乗継利便性を確保したダイヤ検討に取り組む。
ゆうあいの里小坂井線(豊鉄タクシー)	ゆうあいの里~西小坂井駅	連携・乗継利用の喚起施策については、市費で本市を運行する幹線バスとコミュニティバスのGTFSデータを整備し、鉄道・幹線バスとコミュニティバスとの一体的な経路検索(Google・ナビタイム)を可能にした。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:12,231人/年 年利用者実績:8,686人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:71% 入浴施設利用目的が多い路線であり、新型コロナウイルス感染症の影響で施設の休館などがあったため、利用者数は前年度比69%であった。	長大路線で運行本数が少ない点を解消するため、主に豊川市民病院以南を運行する路線に短縮し、運行本数の増加に向けて協議を進める。
音羽線(豊鉄タクシー)	グリーンヒル音羽~市役所	計画策定への期待については、調査結果を踏まえ、協議会において幹線バスとフィーダー系統の並走解消や長大路線の短縮化等について協議中である。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:10,921人/年 年利用者実績:11,327人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:104% 日常生活に欠かせない買い物利用目的が多い路線であるため、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり受けず、利用者数は前年度比93%に留まった。	国府駅~市役所間の並走を解消し、音羽地区内の運行本数の増加に向けて協議を進める。
御津線(豊鉄タクシー)	あかね児童館~市役所	計画策定への期待については、調査結果を踏まえ、協議会において幹線バスとフィーダー系統の並走解消や長大路線の短縮化等について協議中である。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:8,737人/年 年利用者実績:7,449人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:85% 通勤目的が比較的多い路線であるため、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり受けず、利用者数は前年度比84%に留まった。	国府駅~市役所間の並走を解消し、御津地区内の運行本数の増加と、低迷する御津地区地域路線と一体となった見直しに向けて、協議を進める。
一宮地区地域路線<東回り>(豊鉄タクシー)	いかまい館~いかまい館	計画策定への期待については、調査結果を踏まえ、協議会において幹線バスとフィーダー系統の並走解消や長大路線の短縮化等について協議中である。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:10,194人/年 年利用者実績:4,447人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:44% 利用目的のほとんどが入浴施設利用となっている路線であり、新型コロナウイルス感染症で施設の休館などがあったため、利用者は前年度比56%と、特に大きく減少した。	利用者数の増加に向けて、一宮地域公共交通運営協議会とともに協議を行い、利用者が見込まれる施設付近へのルート変更や利用者が少ない区間を短縮し、利用者数と収支率の向上に向けて取り組む。
一宮地区地域路線<中回り>	いかまい館~いかまい館	計画策定への期待については、調査結果を踏まえ、協議会において幹線バスとフィーダー系統の並走解消や長大路線の短縮化等について協議中である。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:10,194人/年 年利用者実績:4,447人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:44% 利用目的のほとんどが入浴施設利用となっている路線であり、新型コロナウイルス感染症で施設の休館などがあったため、利用者は前年度比56%と、特に大きく減少した。	利用者数の増加に向けて、一宮地域公共交通運営協議会とともに協議を行い、利用者が見込まれる施設付近へのルート変更や利用者が少ない区間を短縮し、利用者数と収支率の向上に向けて取り組む。
一宮地区地域路線<西回り>	いかまい館~いかまい館	計画策定への期待については、調査結果を踏まえ、協議会において幹線バスとフィーダー系統の並走解消や長大路線の短縮化等について協議中である。	A 計画どおり実施している。	年利用者目標:10,194人/年 年利用者実績:4,447人/年(R1.10~R2.09実績) 達成状況:44% 利用目的のほとんどが入浴施設利用となっている路線であり、新型コロナウイルス感染症で施設の休館などがあったため、利用者は前年度比56%と、特に大きく減少した。	利用者数の増加に向けて、一宮地域公共交通運営協議会とともに協議を行い、利用者が見込まれる施設付近へのルート変更や利用者が少ない区間を短縮し、利用者数と収支率の向上に向けて取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和2年12月21日

協議会名:豊川市地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の評価 2. 次期地域公共交通網形成計画の素案作成 3. 基幹路線及び地域路線の見直し検討 <p>【結果概要】</p> <p>令和3年3月の次期地域公共交通計画の策定・公表に向けて、令和元年度に整理した、将来像、基本方針、目標の設定と公共交通路線体系のあり方を踏まえ、第45回豊川市地域公共交通会議(令和2年6月18日開催)以降で協議を行い、次期地域公共交通計画をまとめる。</p> <p>令和3年10月からの新たなバス路線での運行開始に向けて、具体的な運行ルート、ダイヤ、運賃体系等の見直しの検討を行う予定。</p>	A 計画どおり適切に事業が実施されている。	<p>【補助対象事業名】</p> <p>地域公共交通調査事業(計画策定事業)</p> <p>【事業内容】</p> <p>令和2年度豊川市公共交通網形成計画作成等業務</p> <p>【実施時期】</p> <p>令和2年7月31日～令和3年3月26日</p> <p>【計画策定に向けた方針】</p> <p>地域間で達成状況に大きな差が出ない数値目標に変更するとともに、鉄道・幹線等についても数値目標を設定で整理を行う。</p> <p>目標1:公共交通機関利用者数(豊川市コミュニティバス、豊鉄バス新豊線・豊川線、タクシー)、主要な鉄道駅の1日あたりの乗車人数 目標2:コミュニティバス年間収支率 目標3:コミュニティバス行政負担額 目標4:市民移動手段の公共交通分担率 目標5:バス停・駅勢圏等カバー率</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年12月21日

協議会名:	豊川市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>豊川市の公共交通のあり方は、公共交通に関わる課題への対応や、利用者や地域のニーズに応えながら、合併により広がった市域に対応した公共交通サービスを提供していくことが必要となっている。また、拡大した市域における公共交通サービスの展開は、行政や交通事業者だけでなく、市民・地域・利用者も一体となって支えることが不可欠である。</p> <p>”市域全体を一体化し、みんなで支える公共交通ネットワークづくり”を将来像として、市域全体を一体化する公共交通ネットワークの構築に向けて市民・地域・利用者が一体となって取り組み、公共交通の利便性向上を目指す。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年12月21日

協議会名:	豊川市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>豊川市では、平成28年3月に策定した豊川市地域公共交通網形成計画が令和3年3月で計画期間が満了となる。</p> <p>次期計画については、令和3年3月の策定・公表を目指し、本調査では現形成計画の評価指標のデータ整理・分析を行い、現形成計画の取組の成果・評価の整理を行うとともに、現状と課題の整理を行い、将来像、基本方針、目標の設定と公共交道路線体系のあり方を検討する。</p> <p>また、新たなバス路線での運行開始は令和3年10月からを目指し、バス路線見直しの検討を行う。</p>